

被ばくのある者からの 自己末梢血幹細胞保存について

- 1) 通常、G-CSF（白血球を増やす薬）を4日間皮下注射し、4日目にアフエレーシス（成分採血）装置を用いて末梢血幹細胞を採取し（所要時間は4時間前後）、凍結保存を行う。

当院で、ドナーから同種末梢血幹細胞移植を採取する場合は、金曜日入院して全身状態を確認後、G-CSF皮下注連日投与を開始。

月曜日の午前中にアフエレーシスを行い、夕方に幹細胞採取量を確認し、火曜日に退院。

1日目に十分量を採取できない時は、火曜日に2回目の採取を行い、水曜日に退院。

- 2) 採取の翌日、または翌々日から復職は可能。
- 3) 今後、被爆のリスクがある職員から自己の末梢血幹細胞保存を行うことが決定された場合、当院でも週に2～3人以上、受け入れ可能。

<補足説明>

造血機能が低下する程度の被爆を受けた場合も、自己の末梢血幹細胞を解凍して点滴することにより、安全に造血機能を回復させることが可能となる。

ただし皮膚や腸管の不可逆的変化が起きるレベルまで高線量の被爆を受けた場合は、造血幹細胞移植でも救命が困難。

同種移植（他人の幹細胞を用いた移植）もその場合に選択肢となるが、合併症死亡が2-3割と高い点が問題点となる。

G-CSFに加えて国内未承認のPlerixafor（モゾビル）を使用すれば、入院期間を2泊3日へ短縮させることが可能。